R5.11.1発行

11月の子育て支援センターだより

センターで育てたサツマイモは大豊作！皆でイモ掘りをした後は、イモヅルを使ってクリスマスリースの土台作りを始めています。そんな時、抱っこひものパパが空を指差して…「レンズ雲ですね～」と教えてくれました。レンズ雲が山の上に出ると、雨が降るとか…縁起が良いとか…いわれているそうです。

お碗を使うとイイですよ！おじいちゃんの隣りでウチの子してますよ

二週間、稲架(はさ)掛けして稲穂にたっぷり養分が行った頃、庭で脱穀をしました。実家にお手伝いに行ったママに教えてもらった通りにしてみると…小さい子でも簡単に脱穀ができました！ありがとうございます♡これからも皆さんと一緒に楽しくいろいろな事をして行きたいです。

どうぞ、よろしくおねがいします!!

こびとくんのおさんぽ

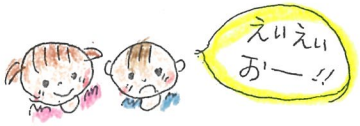
こんなお山があったよ…君ならどうやって遊ぶかな？

外で遊ぶのに気持ちよい季節になりました。大きい子たちが庭へ遊びに出た後、キッズランドでは小さい子たちがいろんな事をしているヨ。ハイハイ赤ちゃんがクッションフロアを自由に動き回ったり、大きい子のマネをして、あっちこっちを登ったり、降りたり。一緒に遊びながら、小さい子は大きい子をよく見て遊びを学んでいるんだね。

赤ちゃんの日

肌に触れる風もだんだん冷たくなり秋の深まりを感じられるようになりました。

10月の赤ちゃんの日は、2つのチームに分かれて運動会ごっこを楽しみました。赤ちゃんの大好きなボールやお手玉を使って、積む・投げる・転がすなどいろんな遊び方でゲームを行い勝敗を競いました。みんなで力を合わせてママ達の交流も深まったようです!!!



よちよちの日

10/18は多目的ホールで7組が参加して運動会ごっこを開催しました。

日ごろのトンネル遊び、ぞうきんがけを競技に取り入れて、一人一人が目標にむかってがんばれました。

最後は輪になって"親子でメリーゴーランド"

10/25はのびのびの日と合同で赤城自然園に行って来ました。紅葉の始まる森でマイナスイオンを、たっぷり浴びて、リンドウや小さな生きものを見たり、ハイカーの方々との出会いもあり、最終目的の樹上小屋に全員到達急階段登りをする子もいました。

からだを十分動かせた10月、お母さんの励ましでがんばれる子ども達でした。

散歩の日

散歩へ出掛けやすい季節となりました。
今年は暖かく紅葉が遅れているようです！
少しずつ色づく葉の変化が楽しみですね♡
10月の散歩は天気に恵まれ、皆さんと散歩へ出られることを嬉しく思います。
駅前児童公園、辰巳町公園、総合公園には沢山のどんぐりが落ちていて、それぞれの公園で違う種類のどんぐり拾いが楽しめました！
総合公園では、簡単木の実入れバックを作りました。親子で手作りバックいっぱいに木の実拾いができましたね♥（どんぐり拾いに夢中です♥）

（赤ちゃんとお姉さんで仲良く日光浴♥）

のびのびの日

・10月は、収穫の経験をしました。
稲刈りでは、カマを片手に頑張るお母さん達。さつま芋掘りでは、ツルを引っ張る子ども達。大きなお芋にビックリ。
自然物に触れ、秋を楽しみました。
掘ったさつま芋は、どんなお料理に変身するのかな？

・11月は七五三の月ですね。渋川八幡宮へ行き、健やかな成長を願い、日頃の感謝をしに、参拝に出掛けたいと思います。ぜひ参加して下さいね（予約をお願いします）

必要なのは大人の笑顔と待つ心（がまん）です

「がまんする力（ちから）」の大切さ

人をいたわる優しい「こころ」は、関わる人間の愛の中ではぐくまれます。「愛」されて育った人は人を大切にでき、自分も大切にすることができます。人間は、人の気持ちが分かり相手の立場になって物ごとを考えたり、相手に共感できたりする力を持っているから社会生活をおくることができるのです。

これらは、乳幼児期から「十分な愛情」と日々の生活の中で「少しだけがまんする体験を繰り返していくこと」で身に付けていくことができます。

- 自分の感情が抑制できる自制心
- 社会性と規則を守る意思
- 他人に迷惑をかけない
- 相手の気持ちが理解できる
- 決して暴力を振わない

これら全てに「がまんする力（ちから）」が働いています。

子ども自身に「自分で生きる力」をつけるために

子どもに泣かれると親は心が揺れるものです。
それを見抜いて泣いてみせるのが子どもです。子どもは泣くことで、その時々の親の対応を学んでいきます。
親は泣かれても「ダメ」なことは「ダメ」と教えなければなりません。

「子どもに泣かれても譲らない強い意志」を持つことが、大人の「がまんする力」です。

「少しがまんすること」を教えるには、日々の生活の中で乳児なら「甘え泣きを少し泣かせて様子を見たり」幼児なら「一人で全部食べたいけど兄弟で分ける」「一人で使いたくても皆で使う」など、「小さながまんをする体験」を積み重ねることが大切です。

そして、がまんができたら、笑顔で抱っこして、ほめてあげる物はいりません。抱きしめて「大好きだよ♥」

今井寿美枝：編著「がまんする力」を育てる保育〈参照〉